



データを示しながら講演する藻谷氏

「今日聴いたことを、子育て中のお母さんたちにも広めていきたい」「子育て支援はとて大切」「地域にあるものをどう活用していくかを考えるべき」「雇用対策を」「地域の子どもたちが、一度町外に出て見

ることは大切。出た子どもたちが帰ってきたらと思えるマチになるべき」などの意見が出されました。委員会は、今後も公開制で行われます。9月の委員会は次のとおり開催しますので、皆さんもぜひ、ご来場ください。

▼日時・場所  
 ・第2回 てしかが創生委員会／9月3日(木) 13時～ 役場 3階委員会室  
 ・第3回 てしかが創生委員会／9月30日(水) 13時～ 摩周観光文化センター 視聴覚室

※事前申し込みは不要です。直接、会場にお越しください。

## みんなで考える マチのあるべき姿

同日、地方創生セミナーが町公民館で開催されました。町の皆さんに、地方創生を自分のこととしてとらえ、共感し、協力していただくきっかけにと開催されたもの。町民の皆さんなど約100人が参加し、ましてしが創生委員会の皆さんによるトークセッション(討論会)に耳を傾けました。

トークセッションでは、まちづくりアドバイザーの山田桂一郎氏をファシリテーター(進行・まとめ役)、原俊彦氏と藻谷浩介氏、上村剛志さ



弟子屈の未来について意見を交換

ん、徳永町長が意見を交わしました。原氏は「地域の皆さんが、人口減少に対する危機感を共有し、協力し合っつて地域でお金が回る仕組みをつくるべき」と強調。藻谷氏は、てしかが創生委員会でも話した持論を展開

「人口減少の克服」「地方創生」という大きな課題に取り組むため、国は「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げました。昨年11月には「まち・ひと・しごと創生法」を施行。各地方公共団体は、今年度中に地方創生に向けた5年間の地方版総合戦略を策定することになっています。

町では「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略策定推進本部(本部長／徳永町長)」を設置。吉備津副町長、小林教育長を副本部長、町管理職を本部長とし、さらに町の若手職員を中心とした「人口問題検討会」も同本部の下部組織として発足させ、今年度中に「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略(弟子屈版総合戦略)」を策定します。

今回、設置した「てしかが創生委員会」は、総合戦略策定にかかると町長の諮問機関。町民の皆さんや外部有

開し、上村さんは「これからのマチを担うのは自分たち。人とのつながりを大切に、マチの魅力が次代を担う子どもたちに伝えていきたい」と話しました。

皆さんのお声をお寄せください。

■連絡・問い合わせ先／役場まちづくり政策課政策調整係 ☎482・2913(課直通) ☎482・2696  
 メール kikaku@town.teshika.gahokkaido.jp

## あなたの意見が マチの未来を創る

弟屈版総合戦略には、皆さんの思いや声を反映させたいと考えています。

皆さんのお声をお寄せください。

第1回 てしかが創生委員会が8月10日、町公民館で開催されました。委員会には同委員と、てしかがまち・ひと・しごと創生戦略策定推進本部員が出席。委員会は一般に公開する形で行われたため、町内外から約30人が聴講に詰めかけました。

最初に徳永町長が「マチが消滅することなく、安心して暮らせるまちづくりが目標。子育て、雇用、定住、農業振興、観光客の市街地への誘導など、本町が抱える課題解決に最大限効果的なプランを策定したい」とあいさつ。

開催に先立ち、19人の委員に徳永町長から委嘱状が手渡され、委員長に日本人口学会会長で札幌市立大学教授の原俊彦氏、副委員長に摩周丘幼稚園父母の会会長の上村剛志さん、おひさま保育園保護者の会事務局長の萩原寛暢さんが選出されました。

(委員は左ページの表のとおり)

次に町の担当者が、町が進める地方創生の概要について説明。201

## てしかが創生委員会(順不同・敬称略)

役職	氏名
日本人口学会会長・札幌市立大学教授	原 俊彦
(株)日本総合研究所 主席研究員	藻谷 浩介
弟子屈町まちづくりアドバイザー	山田 桂一郎
町議会総務経済常任委員会 委員長	近江屋 茂
町議会文教厚生常任委員会 委員長	小川 義雄
一般社団法人摩周湖観光協会 会長	木暮 敏男
弟子屈町商工会 会長	桐木 茂雄
摩周湖農業協同組合 代表理事組合長	川口 覚
(株)北洋銀行弟子屈支店 支店長	遠藤 光晴
釧路信用金庫弟子屈支店 支店長	宮森 俊一
連合北海道弟子屈地区連合会 会長	阿部 洋幸
北海道立弟子屈高等学校 校長	木村 浩士
弟子屈町校長会 会長	中村 涼子
環境省釧路自然環境事務所川湯自然保護官事務所 川湯自然保護官	串田 卓弥
弟子屈町自治会連合会 副会長	松田 政幸
摩周丘幼稚園父母の会 会長	上村 剛志
おひさま保育園保護者の会 事務局長	萩原 寛暢
ユースフルネットワークてしかが 会長	今井 慎也
女性団体協議会 会長	館 昭子

※てしかがまち・ひと・しごと創生戦略の策定状況期は、町公式ウェブサイトでお知らせします。



# てしかがまち・ひと・しごと創生 てしかが創生委員会・地方創生セミナー

みんなが豊かで幸せなマチを目指し  
弟子屈版総合戦略策定へ

町では8月10日、第1回 てしかが創生委員会と地方創生セミナーを町公民館で開催しました。同委員会は、国が地方公共団体に求める地方版総合戦略策定のため設置されたもの。年内に弟子屈版総合戦略をまとめる予定です。

## 幸せに暮らせる 活力あるマチに

「人口減少の克服」「地方創生」という大きな課題に取り組むため、国は「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げました。昨年11月には「まち・ひと・しごと創生法」を施行。各地方公共団体は、今年度中に地方創生に向けた5年間の地方版総合戦略を策定することになっています。

町では「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略策定推進本部(本部長／徳永町長)」を設置。吉備津副町長、小林教育長を副本部長、町管理職を本部長とし、さらに町の若手職員を中心とした「人口問題検討会」も同本部の下部組織として発足させ、今年度中に「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略(弟子屈版総合戦略)」を策定します。



昨年12月に発足した人口問題検討会

今回、設置した「てしかが創生委員会」は、総合戦略策定にかかると町長の諮問機関。町民の皆さんや外部有

## 仕事・子育て支援 地域資源活用を

識者の方など19人で構成されています。今後、創生戦略策定推進本部と創生委員会と、総合戦略策定に向けた議論を行います。

第1回 てしかが創生委員会が8月10日、町公民館で開催されました。委員会には同委員と、てしかがまち・ひと・しごと創生戦略策定推進本部員が出席。委員会は一般に公開する形で行われたため、町内外から約30人が聴講に詰めかけました。

最初に徳永町長が「マチが消滅することなく、安心して暮らせるまちづくりが目標。子育て、雇用、定住、農業振興、観光客の市街地への誘導など、本町が抱える課題解決に最大限効果的なプランを策定したい」とあいさつ。

開催に先立ち、19人の委員に徳永町長から委嘱状が手渡され、委員長に日本人口学会会長で札幌市立大学教授の原俊彦氏、副委員長に摩周丘幼稚園父母の会会長の上村剛志さん、おひさま保育園保護者の会事務局長の萩原寛暢さんが選出されました。

(委員は左ページの表のとおり)

次に町の担当者が、町が進める地方創生の概要について説明。201